

滿乾元三十三八年

猶車様用額一件

官房ヨリ午込正若松町工藤為吉

相車様用ノ義ニ付朝出立御事特ニ至ニ
屬右ノ各部ニ就キ必要ノ件ウト實豫ヲ經カレハ
到處軍用易トエラ便用、見込參之多ハ安ヒ
禮、参考トエテ當有ヘシ。署中萬國多事
知悉

滿乾元三十三八年正月廿五日

正月廿五日

2036

第二九三

正月廿五日

(稿)

正月廿五日

正月廿五日

正月廿五日

陸軍省
文鏡 満乾集 三三二八編

十一月八日

陸軍省
文鏡 満乾集 三三二九編

十一月十日

楯車歩採用願

防衛不工事ノ設アル敵ノ陣地ニ向ヒ進軍入
ル際用ル所謂楯車ニテ其使用タルヤ道路
十キ妨害物、多キ極メテ險惡ナル原野ニ於
テ用ルモノナレハ成ルヘク支障物ノ害ヲ避ケン
カ為メ車輪壹個ヲ用ヒ進軍ノ際、第一面ノ如
ク彈防板ヲ車輪一面ニ添ヘ恰モ彈防板ヲ車輪
ト合セタルカ如クナシ狹隘ノ處ト並尼容易ニ進
行セシムルモノトナシ又彈防板ノ下タ兩角ヲ
削リ取リタルハ障害物ニ觸ル、モ其削リ取
リタル处ヨリ漸々車輪ヲ助ケテ容易ニ障害
物ヲ乘越サシムル便益トナシ又彈防板ノ一方ニハ
兵士ヲ推乃帶品ヲ繫縄舟一方ニハ兵士ノ乗ル處ヲ設ケ平

地十九处、至レハ足休メノ為メ兵士壹名死乘ラシ
 ハ凡兵士三名、猪車壹輛ヲ推行セシムルモノト假
 定シテ実際壹人ニ廿十里、定歩行スレハ十五里進
 ム割合ニ相成リ候而シテ実戰場合ニ至レハ第
 二番ノ如ク彈防板ヲ前面横三間キ、龙右ノ支柱ヲ以
 テ倒ル、ヲ防キ又其後進行セシムルヲ得テ至
 極便利ニ被存候間、何率御審杏ノ上御株
 用相成度、此段奉願上候也

明治廿七年十一月四日

東京市牛込区若松町武番地

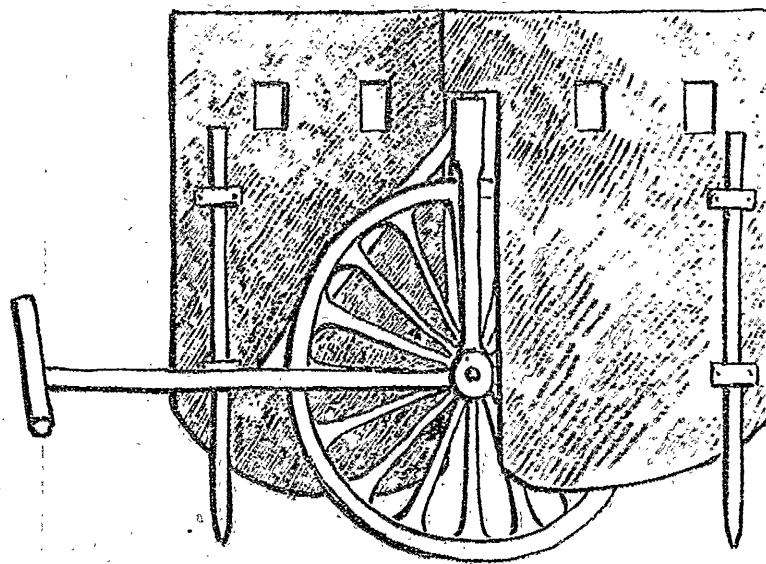
工 藤為吉



陸軍大臣寺内正毅殿

2039

第二圖



第一圖

